

第2回市民アイディア会議・第3回庁内アイディア会議 であがった意見（総括）

令和4年6月

（1）飯山市の” いいところ ” は？

○新幹線が通る交通の利便性

- ・新幹線や高速（道路）のアクセスがいい。
- ・アクセスがいい
- ・新幹線が通る交通の利便性

○四季がはっきりしていて美しい

- ・季節は四つあるが、同じ春でも雪解けの春と初夏を迎える春と二種類あるので、飯山の季節は八つあるといってもいいような季節がとても豊かなところである。
- ・「環境」「雪」「水」「山」等がいい。

○雪のある暮らし

- ・雪と共生しているところ。カマクラなどをマイナスに捉えずに、プラスにもっていく。
- ・雪があるからこそお互いに助け合う・支え合う、協力ができるところ。
- ・「四季がはっきりしている」「雪のある暮らし」。「雪のある暮らし」というのは、雪景色もきれいだが、雪に対してハード面もソフト面も強いということ。

○人とまちのよさ

- ・里山。ただの里山ではなく、人が関わっている自然があってそれを活かす、クリエイティブに使っているところ。
- ・「ホッとする景観」「生活感がある観光地」とか、移住者にアピールするところがあった。
- ・こういった会議にこれだけ熱い人が集まれるというのは、若者のパワーがあるということ。
- ・伝統文化が根付いていて、いまだに職人が仕事をしていることで成り立っている伝統文化がある。
- ・スポーツが盛んであるというところで、ただスポーツだけではなく、自然を活用したスポーツが充実している。
- ・衣食住に困らない
- ・食べ物がおいしい、食の種類が豊富で自然が豊かである。
- ・マウスコンピュータが実はあった

(2) 飯山市の”もっと良くしたいところ”は？

○地元に対して愛着を持っている人たちを増やす

○雇用

- ・若者や新しい仕事をする、今仕事をしている人達がチャレンジをするところに、もう少しサポートがほしい。いろんなチャレンジができる体制がほしい。
- ・ほぼいいところが揃っているので、世界レベルに質が向上すれば単価や所得などがアップするのではないか。
- ・商売繁盛、少しずつ繁盛ということで白馬やニセコ等のように大規模な発展の仕方ではなく、少しずつローカルな人達が繁盛する形の方がいい。

○集える場づくり（若者、親子、子育て世代など）

- ・学生が集う場所がない。公園も中途半端だし、やるなら徹底的にやった方がいい。質の高いものを。

○飯山駅前・駅ナカの魅力づくり

○住みたいまち →住み続けたいまち

- ・事業、介護・福祉関係、インフラ整備が全然足りていない。特に子育てに対する支援が、病院関係含めて足りていない、もう少しほしい。子育てをしていく上での子育てしやすい環境、親への支援や子どもの居場所、そこに大人も居られるような居場所づくり・環境が不足している。
- ・アクセスがいいという話が“いいところ”で出たが、反面、交通の便が少ない、山間部では交通の便が少ない、もう少しアクセス面を充実させたい。
- ・電線が邪魔である、ごみ問題、交通問題、景観をもう少し整備できたらよい。
- ・定住のサポートについて。移住してもらっても悪ければどこかにいってしまうので、そこに実際に住んで長く生活できるような家をつくるとか、建築時の補助が出るとか、定住するためのサポートがほしい。
- ・災害に強い対策、住民の意識、市の補助等、災害に対してのサポートももう少しあったほうがよい。山の整備や林間に対しても、そういった対策をしていく必要があるのではないか。
- ・スキーもかなり重要な文化の一つではあるが、せっかく貴重なものを活かしきれていない。もう少し、スキーに対してのサポート体制があるといいのではないか。例えば、子ども達が気軽に体験できるものがない。データがあるともう少しチャレンジできたり、金額を抑えればサポートができるのではないか。
- ・「市政と市民の意見交換会ができる」「雪国ならではの平均収入を上げたい」「芸術、アートを増やして感受性を豊かにする」「大型商業施設があるとよい」等。
- ・アクセスはいいが二次交通、新幹線を降りてからの交通がよくない
- ・「住みたいまち」から「住み続けたいまち」。これはすごく大事だと思う。住みたいまちランキングに入っているが、果たして住み続けたいまちランキングに入っているのか。
- ・「行事・祭り・役割等、伝承するために見直しが必要なのではないか」はかなり男性的な役割だと思うが、伝承を続けていくために組織の内容とかをもう一度見直した方がいいのではないか。

○関係人口の増加

- ・「関係人口が増えたらいいなあ」、外の風を入れたい。

○情報発信・情報流通

- ・情報発信について、ただ発信するだけではなく、相手に伝わるというところがまだ足りていないのではないかな。
- ・凄くいいところもあるが、PRが凄く下手で非常にもったいない。
- ・「情報発信」とあるが、シティセールスの情報発信をよくしていった方がいいのではないかな。具体的には子育てや結婚の情報が事前にわかるような仕組みがもっとあったらいいのではないかな。

○まちへのネガティブな想い・孤立・孤独

- ・ネガティブな思い、自信がない、孤立・孤独、余裕がない、今の飯山のことしか見えていないという思いが多い。心のケアがもっと必要なのではないかな。

(3) 飯山市の10年後の”ミライ”の姿(将来都市像イメージ)

○洗練された田舎で一人ひとりが暮らしを愉しめる風通しのよいまち

○安心して産み育てられる日本一子育てしやすいまち

○キーワード群

- ・スキー文化の発展(長野県スキー発祥の地、市民総スキー 等)
- ・景観(山並の景観、寺町 等)
- ・楽しい関係で地域をクリエイト(関係人口に関わる人と活躍できる場 等)
- ・食(美味しい店)
- ・空き家ZERO
- ・チャレンジへのサポート(前例がないことにチャレンジ 等)
- ・都市部(集約)と山間部の融合
- ・ダイバーシティ(他文化を受け入れ、互いに安心できる 等)
- ・定住サポート(新築、場所、省エネ 等)
- ・災害対策(雪対策、山の整備、住民同士の助け合い 等)
- ・ALL いいやま(ネガティブ思考とポジティブ思考との差を縮めたい、日本一・世界一をめざす 等)
- ・守る(除雪、美しい日本のふるさと)
- ・生活スタイル(市民一人ひとりが各々のステージで生活を楽しんでいる 等)
- ・環境(きれいな水と暮らせる貴重な場所 等)
- ・100年後のための10年後
- ・可能性にあふれている(広い目をもつ、ロイヤルファミリーへの営業、駅前ホテル周辺の賑わい、芸術アートを増やす 等)
- ・連れて行きたいと思える(住民が誇りをもって情報発信 等)

■会議での発表内容

- ・大まかな目標は、住民自身が自信をもって今住んでいる飯山がよいところだと、行政にすべて依存するのではなく自分達も情報発信して、自信を持って暮らして行けるところになるといい。具体的には「安心して子どもを産み育てられる日本一子育てがしやすいまち」、「スキー文化の発展」「持続可能な里山づくり」「災害に強いまち」「職を活かす」「空き家問題をゼロにする」。
- ・飯山は「環境」や「教育」とか、可能性にあふれている。市外から来た人を連れて行きたいと思う場所があったり、自慢できる。
- ・将来のイメージ10年後というが、正直10年後どうなっているかは難しく、2・3年後どうなっているかさえもわからない世界になっている。10年で完結させるというのは絶対に無理だということを前提に、10年後完結する目標ではなく、100年後に飯山が飯山であるための10年後を考えた上でこのミライ像をイメージしたい。
- ・子ども達を中心として考えられるまちだと、若い人達を主役にできるのではないかと。→「ミライの飯山を、中心となる子ども達を育てるまち」
- ・「飯山(いいやま)」ではなく、名前を変えて「飯山(めしやま)」にしてはどうか。その方が飯山らしいかもしれない。
- ・「景観」、「子どもや若者、未来」、「多様性」「風通しのいい」「持続可能である」に関する意見を基に検討した結果、将来都市像の案として「一人ひとりが暮らしを愉しめる風通しのよいまち」

(4) 飯山市の10年後の”ミライ”の姿(基本目標と施策)

・環境・観光

- ・自然と市民がバランスよく調和し、共生する持続可能な環境に配慮したまち
- ・自然と市民がバランスよくそれぞれのステージで楽しみ、活躍できるまち

・住まい

- ・飯山での生活をそれぞれのステージで楽しみ、活躍するまち
- ・多様性を享受し、様々な交流を生み出すまち

・子育て

- ・未来の飯山を中心となる子どもたちを育てるまち

・ちょうどいい雪国

- ・ちょうどいい 観光寄りでも生活寄りでもない
- ・雪国なのに暮らしやすい
- ・世界一安心して暮らせる雪国いいやま
- ・いいやまらしさ
- ・100年後のための準備
- ・ワクワクしている
- ・楽しみなまち